

MACC^{マック}通信

Monozukuri Arakawa City Cluster

第37号

2016年7月7日発行

《主な内容》

- ・機械要素技術展にMACC会員8社が共同出展
- ・MACCプロジェクト発新商品紹介！！
株式会社国立 T-Loop事業部/有限会社中央
バフ製作所/石川金網株式会社
- ・クラウドファンディングの基礎知識 Vol1

荒川区が進める『MACCプロジェクト』は、荒川区の特徴である多彩な産業集積を生かした、区内企業同士の顔の見えるネットワークの形成を推進することによって、荒川区の産業振興を図るものです。

「MACC通信」では、この『MACCプロジェクト』に関わるホットな情報をお届けします。

第20回機械要素技術展にMACC会員8社が共同出展

平成28年6月22日(水)～24日(金)まで、東京ビッグサイトで開催された「第20回機械要素技術展」で、荒川区のブースにMACC会員8社が共同出展しました。

今回で20回を数える「機械要素技術展」は、軸受、ベアリング、ねじ、ばねなどの機械部品や、金属、樹脂に関する加工技術を一堂に集めた日本最大の専門技術展で、毎年、多くの来場者を集める商談のための展示会です。

今年度、荒川区では初めて、区内製造業の活性化につなげるため、本展示会で、まとまったブースを借り上げ、出展社が出展料の一部を負担する形で、共同出展社を募り、下表の8社が共同出展をしました。

開催期間中は、出展各社による、製品の展示・実演が盛んに行われ、



また、同時に開催された講演会にも多くの方が詰めかけ、会場全体が活気に溢れていました。

荒川区ブース内に設けられた商談スペースにも、商談をする姿が見受けられ、区内企業に対する来場者の関心の高さが伺えました。

出展者に、今回の出展に関する感想について伺ったところ、「引き合いの話が色々あった。」「展示した製品にも良い反応があった。」「新しい出会いが生まれた。」との声があり、成果があったことが伝わってきました。

今回の展示会では、下表8社の共同出展の他に、MACC会員企業からは、日建塗装工業(株)が単独で出展をしていました。

企業名	所在地	業種	出展内容
㈱アポロ製作所	西日暮里1	特殊印刷業	低コストメタルプレート・オンデマンドステッカー他
石川金網㈱	荒川5	金網製造販売業	工業用フィルター・ふるい・コンベアーベルト
志幸技研工業㈱	西尾久5	見守り事業	ネットミル見守りシステム・ネットミルスマートメーター見守りシステム
㈱鈴木製作所	町屋7	板金、機械加工業	sus-tank(ステンレス加圧タンク)・sus-customtank(ステンレス特注タンク)
㈱タカハシ	東日暮里6	ゴムパッキン製造業	部品供給装置(特許出願中)・自動車部品
電光工業㈱	東尾久2	モータ始動器製造販売業	特殊コンドルファ始動器 Vスター・ソフトスター α-Beat
㈱トネ製作所	町屋8	金属加工業	小型衛星用バッテリーボックス
㈱日興エポナイト製造所	荒川11	ゴム製造業	NBRフロート・カラーエポナイト・「笑尊屋(えぼや)」万年筆

共同出展企業一覽(五十音順)

MACCプロジェクト発 新商品紹介！！

このコーナーでは、MACC発新商品を紹介していきます。今回は、“MACC発新事業第1弾”としてMACC発新商品に認定された株式会社国立 T-Loop事業部の「音響空間提供サービス」と、同じく“MACC発新事業第1弾”に認定された有限会社中央バフ製作所の「バフコンシェルジュ」。そして石川金網株式会社の「おりあみ/ORIAMI」の3つを取り上げます。また、その商品に対する経営者の想いをそれぞれ伺ってみました。

音響空間提供サービス(MACC発新事業第1弾)

株式会社 国立 T-Loop事業部 (所在地: 南千住6-18-3 TEL: 03-3802-8071)
<http://www.kunitachi.co.jp/t-loop/>

【製品紹介】

MACCコーディネータの支援を受けながら新たに開発した、タイムドメインスピーカーに当社独自のチューニング技術や、周辺機器を付加することで“特別な音空間の創造”を行うサービスです。

“生活を豊かにする音”を目指して、スピーカーを販売するだけでなく、スピーカーの性能を向上させるオリジナルのチューニング技術や、平成24年MACC発新製品に認定されたインシュレータ、またその派生商品であるエポナイト製インシュレータ(あすめし会メンバーとのコラボ製品)等の周辺機器の開発を進め、当社独自の価値を提供しています。また、最適な音響空間を実現するためのコンサルティングサービスも行っています。

【関根社長より】

今までマニア向けのものづくりを進め好評を得てきました。今後は培った技術を基に、もっと身近に立体音を楽しんでもらう「ことづくり」を事業のテーマとしました。

例えば、家族の思い出のビデオに新しい音響空間をプラスすることで、鮮明な記憶を共有してもらうような「家族のコミュニケーションの場」を、お届けしたいと思います。



バフコンシェルジュ(MACC発新事業第1弾)

有限会社 中央バフ製作所 (所在地: 町屋1-26-5 TEL: 03-3895-4762)
http://www.chuo-buff.com/buff_concierge.html

【製品紹介】

MACCコーディネータの支援を受けながら新たに開発した、バフ研磨業界の様々なニーズに答える総合サービスです。

この新サービスは、同社が、独自に作り上げた情報ネットワークを活用して、バフ研磨のあらゆるニーズに答えていくものです。研磨職人、研磨依頼業者、研磨工具メーカー等の様々な情報をネットワーク化することにより、顧客にとって最適なバフ研磨に関するソリューションを提供することが可能です。

バフ研磨とは

布製またはその他の材料で作られた研磨輪(バフ)を、機械に取り付け表面に研磨剤を塗布しながら回転させ、対象物を押し当てて研磨する方法。

【倉澤社長より】

バフを通して、世界や社会に貢献できる喜びを、社員一同、お客様と共に感じて行きたいと思っています。また、その喜びをお客様の要望や関係者の協力の基、一歩ずつ進めて行きたいとの願いを込めて、このサービスを提供させていただいております。

弊社は「物も、技術も、心も、磨く。そして、磨かれる」をモットーにサービスを展開して行きます。



おりあみ / ORIAMI

石川金網 株式会社 (所在地: 荒川5-2-6 TEL: 03-3807-9761)

<http://ishikawa-kanaami.com/kanaamiorigami/>

【製品紹介】

MACCコーディネータの支援を受けながら新たに商品化した、世界で初めてとなる金網で折る折り紙です。

布のようにしなやかで紙のように張りがある金網を使い、紙で作る折り紙と同様に折ることが出来ます。

約1年に渡る試行錯誤を重ねた上、荒川区産業展にてモニター販売を行ったところ、「壊れないから良い」と高評価を得ました。

更に、折り紙アーティストの宮本眞理子氏の指導や日本折紙協会の監修を得て、安心して折り紙を楽しめる製品に改良されました。

(「平成27年度第10回TASKものづくり大賞」にて大賞を受賞)

【石川社長より】

金網折り紙「おりあみ/ORIAMI」は弊社店頭、ヤフーショッピングサイトで購入頂けます。
不思議な折り紙をお試しください。



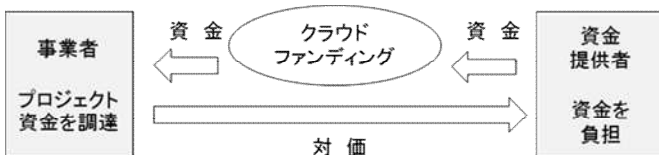
クラウドファンディングの基礎知識 Vol1

最近耳にするようになった「クラウドファンディング」。今回、編集部ではこの「クラウドファンディング」について、資金調達ツールの一つとして注目してみました。

「クラウドファンディングって何だろう？事業者にとって何の役に立つの？どんな種類があるの？どんな手段があるの？」といった疑問を数回に分けて、日本経済大学の相馬准教授に解説していただきます。

クラウドファンディングは、事業者がインターネットサイトを利用し、資金提供を呼び掛け、これに賛同する者が資金を提供する形態をとっています。クラウドファンディングの利用者は、大きく2つに分けることができます。資金を必要とする者と資金を提供する者です(図表1)。

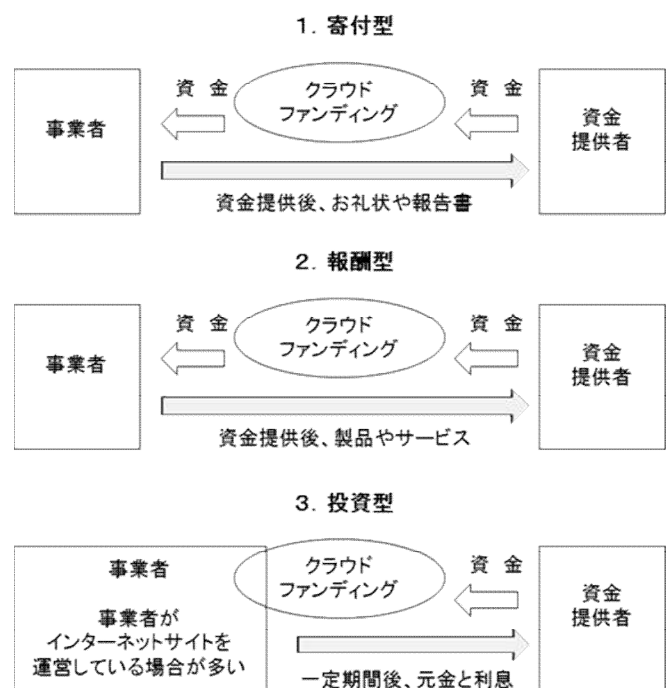
図表1 クラウドファンディングの仕組み



「クラウドファンディングって何だろう？事業者にとって何の役に立つの？」という疑問がある方もいらっしゃるでしょう。今回は、クラウドファンディングの概略をみていきます。事業者の視点からみると、手段別に 寄付の手段として利用されている寄付型、 資金の報酬として物品やサービスを提供する報酬型、 投資の手段として利用されている

投資型の3つに分けることができそうです(図表2)。

図表2 手段別クラウドファンディング



手段別クラウドファンディングの例をあげますと、

寄付型については、震災等の復興等特殊な事情のもとで資金の援助を求めることが多いようです。慈善団体等が窓口となり資金提供者に呼びかけます。見返りを求めた資金提供ではなく、お礼状や活動報告によって資金提供者に感謝の意を表するものがあります。多くの場合、災害への寄付や途上国への支援等に利用されているようです。

報酬型は、資金提供のリターンとしては製品やサービスを提供するものです。提供された資金の金額に応じ、資金提供者にリターンを提供することが多いようです。クラウドファンディングのネットサイトを利用している以外に、通信販売と大きな違いがあるようにはみえません。ちなみに、クラウドファンディングの利用手段のなかでもっとも利用されているのが、この報酬型です。

投資型は、金融会社が貸付金の元手として投資家から少額の資金を集めており、資金提供者は、一定期間後に元金と利息を受け取るものです。元利金が保証されていないものもあります。

図表3は、事業者からみた手段別クラウドファンディングの特徴です。

図表3 事業者から見た
手段別クラウドファンディングの特徴

	寄 付 型	報 酬 型	投 資 型
特徴	・被災者への支援等 ・資金提供者の善意による 場合が多い	・事業者は製品やサービス を提供 ・資金提供者は対価を提供	・資金提供者は高利回りを 期待
資金提供者 のリスク		低い	高い
資金提供者 のリターン	・活動報告書 ・お礼状	・商品やサービス	・利息(元利金を保証しない 場合もある)
クラウドファンディング 運営者	クラウドファンディング業者	クラウドファンディング業者	金融会社

さて、話は少し脱線します。投資型クラウドファンディングは、投資家から集めた資金を事業会社に融資することによって運用しています。そして、元利金を保証していない場合が多いようです。高金利で元利金を保証しないということは、投機的な貸出を中心に行っているといえます。情報公開が十分であり、かつ投資家がプロフェッショナルである場合を除き、投資型クラウドファンディングを投資家として利用することは、あまりお勧めできません。

その理由は、投資先の情報を握っている金融会社に対して資金提供者の情報は極めて限られているからです。全ての投資型クラウドファンディングに問題があるとは言えませんが、近い将来問題となるファンドが出現しそうです。

以上3つのファンドを概観しました。事業者の方が最も多く利用しているのは、2つ目の報酬型のクラウドファンディングです。今回は、クラウドファンディングは、どのように使われているのか、について述べたいと考えております。

著者略歴
相馬一天

博士(経営学) 埼玉学園大学大学院。

専門は金融市場論。

近年は、日米の中小企業を中心に研究。大学卒業後、銀行、ベンチャー企業を経て、大学教員(日本経済大学)。

荒川区高度特定分野登録専門家



連載～その19～

牛山博文の 毛～ひと工夫！



MACCミドルコーディネータ
早稲田大学ビジネススクール特別研究員
牛山博文

MACCプロジェクトでは4名のコーディネータによる、きめ細かい企業支援を行っています。

このコーナーでは、牛山コーディネータによる生産管理の事例やMACCコーディネータとしての活動報告等を、わかりやすく連載で皆様にお伝えしていきます。

IoTと中小企業

最近、ものづくりの世界で話題にのぼっている言葉に「インダストリー4.0」や「IoT」があります。

インダストリー4.0は、ドイツ発の第4次産業革命と言われ「スマートファクトリー(考える工場)で労働コストを引き下げ、生産効率を向上させよう」ということのようにです。IoT(Internet of Things:モノのインターネット:センサーや通信機能を持ったモノ)はインダストリー4.0を実現するための重要な手段として位置づけられています。

では、中小企業は限られた資源の中でIoTとどのように向き合ったら良いのでしょうか?中小企業のIoT導入・活用の3つのパターンを考えました。

【パターン1】:自社の生産工場を“考える工場”に変える(個別のIoT+AI)。

大企業同様、自社内の生産性を大幅に向上させようという試みです。開発規模は大きくなり、当然それなりの投資が必要になると思われ、実施できるのは一部の中小企業に限られます。

【パターン2】:取引先との連携の中でIoTを活用する(サプライチェーンのIoT)。

サプライチェーンのIoTとは、BtoBビジネスの流

れの中で、取引先と協働するため導入するという事です。発注元つまり顧客が主導してIoT化を推進し、顧客のIoTを活用したサプライチェーンの中に自社が組み込まれていく場合が想定されます。

【パターン3】:既存のコミュニティやネットワークの中のIoT活用(協働のIoT)。

既存のSNSなどを活用した地域の企業間ネットワークにIoTと活用の仕組みが組み込まれると、今以上の深みや広がりのある連携の姿が実現していくのではないかと思います。例えば、生産で必要な材料や難加工を受け入れてくれる工場、加工機のツールなどの準備を、今まで以上のスピードで円滑に手に入れる事ができるかもしれません。また、運命共同体的な連携に進化する可能性を持っているのではと感じます。

今後、設備や工具メーカーそしてITベンダーなどがIoT化を進めれば、否応でも、いつかは社内の設備や工具、その他の備品・システムがIoTを活用した製品に入れ替わっていくことが想定されます。

今後、自社がどのようにIoTと関わっていくのか?あるいは関わらせるのか?という課題に対する準備は始めておかなければならないと思います。

MACCコーディネータ TOMMYの部屋 VOL.36

😓 「荒川新商品開発マンパワー物語」 😓
MACCシニアコーディネータ 豊泉光男

ジメジメとした梅雨の時期、身の回りのカビや細菌にとっては最も元気な時期です。

衛生面には特に注意が必要です。お元気にこの時期を乗り切ってください。



さて今回は、新商品開発のマンパワーについて一緒に考えてみましょう。新商品開発、ここではモノづくり企業を中心に取り上げます。とかく新商品開発はモノに関わる素材、加工技術、組合せ、品質等のハードウェアが注視されがちですがそれらは優れたマンパワーがあって初めて生きてきます。しかもそのマンパワーは一人だけではなく多くの人々の協力が必要です。これから新商品開発を成功に導くの

に必要なマンパワーについて考えていきます。

1. 開発中心人材について

新商品開発は、まずはアイデアの言いだしっぺが必要です。経営者はこれを一般社員に求めることなく自ら率先することが大切です。モノになるか解らないハイリスクな開発には多くの費用を投入しなければなりません。これを決断できる人はトップしかいません。「社長の仕事は明日の飯の種を創ることと明日の社長を育てること。」この2つの仕事は社長の最重要な仕事ですね。そのことを肝に銘じて、日々の努力を続けていきましょう。「ローマは一日にして成らず。」です。開発についての実践理論、練習、ワークにつきましては「第二あすめし会(ニアス会)」等でお話しています。

2. 開発社外ブレン人材について

新商品開発の良いアイデアが社内では中々出ない場合には外部の力を借りるのが良いでしょう。様々な専門家がいます。デザイナー、経営コンサルタント、弁理士等色々なジャンルの専門家とのコラボや支援を活用しましょう。SWOT分析でもお話ししましたが自社の強みとその活用は社内からは見えにくいものです。外部の力を借りて、自社の強みの気づきと活用をお勧めいたします。

3. 開発後継人材について

会社の寿命は30年、いやもっと短くなっています。一方で、100年を超える長寿企業が我が国では多く存在するのも事実です。しかし、企業を事業単位に細分化するとその主役は時間とともに入れ替わり、新事業が長寿企業のエンジンとして成長していることがわかります。つまり企業名は変わらずとも、中身の事業は外部環境の変化に合わせて自らイノベーションを起こして変化していることが解ります。10年前に調査した時は事業の寿命は10～15年でした。つまり企業の継承にはより多くの新事業の開発が必要ということになります。また、新事業開発を行っている時には後継人材の育成を同時に行うこ

とが重要です。このことは明日の社長を創る大きなきっかけになります。開発のアシスタント人材は次の開発の中心人材になることを意識して参画させ、重責を担う様に育てて行くと良いです。

4. 開発社内協力人材について

新商品・新事業開発のための社内組織の構築。実はこれが一番厄介な難題です。

開発を行う時、賛成して協力する人は社内、社外を通して必ずしも沢山いるとは限りません。一方、反対する人は社外、社内を通して沢山いることが多いものです。開発者は「いく千万の反対があっても我ゆかん」と粋がってもどっこいそうは問屋がおろしません。この問題が元で開発を中断したり、中止するケースに数多く接してきました。できればこのことを事前に察知して未然に解決できないか。それにはMBA流の名言を借りるなら「組織は戦略に従う。チャンドラー」です。つまり、新商品開発という重大な経営戦略を立案するときには同時に最適組織を作る必要があると言えます。

一例を以下にご紹介いたします。開発の初期はトップと少数でコンセプトづくりをするタスクフォース組織が良いでしょう。また、ある程度メドがたった段階では社内の主要部門から兼任メンバーを集めたプロジェクト組織が適しています。いよいよ販売の見通しがたつ段階では独立しパーマネントな〇〇課等にして専任者も置く必要があります。

さらに売り上げが全体の2割を超える見通しができたら、独立採算ができ自由度の高い事業部制組織にアップさせて柔軟で自主的な活動をサポートする必要があるでしょう。このようなステージによって最適な組織を作っていくのもトップの重要な仕事といえますね。もしお悩みの方はぜひトミーまでご相談ください。最後までお読みいただきありがとうございます。ではまた。

今後のMACC通信の内容充実を目指し、読者アンケートを実施しています。

つきましてはお手数ですが、QRコードもしくは下記URLよりインターネットを介してご回答ください。

<https://www.city.arakawa.tokyo.jp/cgi-bin/formmail/formmail.cgi?d=keieishien>



<発行> 荒川区産業経済部経営支援課産業活性化係 MACCプロジェクト事務局

〒116-8501 東京都荒川区荒川2-2-3 TEL:03-3802-4683 FAX:03-3803-2333

E-mail:macc@city.arakawa.tokyo.jp

登録番号(28)0009号